

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101702		
法人名	社会福祉法人穂燈舎		
事業所名	百華苑グループホーム林泉庵		
所在地	大分県大分市大字東上野1854番地1		
自己評価作成日	令和5年9月10日	評価結果市町村受理日	令和5年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム林泉庵は周辺に田んぼや神社があり、四季折々の花や実がなる、自然豊かな環境の中にあります。食事は季節の食材を使いながら3食とも庵の台所で手作りをし、匂いや音で食事の楽しみを感じて頂いたり、行事や誕生日の際には特別なメニューを提供するなどの工夫をしています。入所者の皆様には食事の下ごしらえ、洗濯物干しや洗濯物たたみなどの家事作業を中心に役割を持って頂いたり、ドライブやレクリエーション、制作活動を行うことで可能な限り状態を維持しながら、穏やかな気持ちで生活できるよう支援しています。医療連携契約を締結している訪問看護ステーションの協力やかかりつけ医への通院介助や訪問診療、訪問皮膚科や訪問歯科の往診も随時受けながら、健康管理に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 事業所周辺に神社や田んぼ、季節ごとの花や実のなる木など、ゆったりとした自然環境にあるため、気ままに散歩ができる。
- 2) 隣接している母体法人の専門職のアドバイスや協力が得られ、事業所の質の向上につながっている。
- 3) 食事は三食とも事業所内で手作りしているため、調理の音や匂いで五感が刺激され、家庭的な雰囲気をかもし出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や廊下、食堂の目の付く場所に理念を掲示し、共有と実践に繋げている。	玄関ホール、事務所、食堂など目につきやすいところに掲示している。職員全員で共有しており、日々の利用者への支援に活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為近年は地域との行事や交流会が行えていないが、地域の方々が自宅で育てた花や野菜を持参してくれたり、公民館へ来る移動販売車まで出向いた際に会話をしながら交流を図っている。今後は地域交流を行える機会を設けていきたい。	コロナ禍により恒例のぜんざい会や運動会を通しての地域交流はできていないが、近隣の方が野菜や花などを持ってきてくれたり、公民館に来る移動販売車を利用したり、事業所周辺の散歩時に地域の方と会話するなど交流の機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症についての事案を報告し、理解や支援をしてもらえるように務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ流行期には資料を郵送し様々な意見を頂き、流行期でないときには直接意見を頂いている。出された意見については職員会議などで職員へ共有しサービス向上につなげている。	コロナ禍のため、事業所の取り組みや状況は書面で報告し、意見をいただいている。出された意見については職員会議で報告し、休みの職員も必ず会議録に目を通し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や包括支援センターの職員には運営推進会議の時を主に、運営状況の報告を行いアドバイスを頂いている。	市から運営推進会議の委員の出席があるので、取り組み状況やヒヤリハット報告について意見、アドバイスを頂いている。わからないことがあれば法人の相談員を通して市の意見をもらっており、職員会議で伝達し共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠をしていない。居室の窓から庭に出たい方には人感センサーを設置することで作動時に付き添うなど、各種機器も活用することで行動の制限は行わないようにしている。	居室から屋外に出たり、玄関から出るのも自由である。玄関にはチャイムが付けてあり、居室の窓にはセンサーがあるが、制止するのではなく職員が必ず付き添い一緒に行動しており、制約の無いケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、職員一人一人が日々のケアの振り返りを行い、言動等不適切なことがある場合には注意をしながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について資料を基に内部研修を行い、知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、退所時、また料金変更などを含めた改定時には書類に目を通してもらい、説明を行い質問を受け、理解と納得をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者の方々からは日常生活において随所で希望を尋ね、家族らには運営会議出席時や面会、電話などで意見や要望を聞き、職員間でも共有をして反映できるように努めている。	毎月、職員が利用者の日常の写真を撮り、林泉庵だよりに同封し、家族に送っている。家族の電話や来所時は意見要望を聴く機会ととらえている。家族会および運営推進会議の意見も運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において意見や提案を聞く機会を設け、職員間でより働きやすいよう意見交換を行い、運営に反映させている。	毎月1回 職員会議をしているが、休みの職員も出席し、給与も出る。日常業務の中での気づき、および業務の見直し、介護計画などについて話し合いを行っている。計画的に職員研修もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体のストレスチェックや年2回の健康診断を受け健康管理を行っている。また職員の話に耳を傾け、職員相互の人間関係に配慮し、気持ちよく働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて、実践に活かせる研修には積極的に参加するよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との同業者との交流については取り組めていないが、外部研修に参加した際には意見交換を行い、参考にしている。また法人間の他事業所らに意見を求めるなど、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を行い、その際に本人から生活習慣や自宅での過ごし方、質問等を聞き取り、施設見学や体験入所を勧め、早く慣れ親しんでもらえるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や施設見学の時に家庭での過ごし方、困っていることや不安なこと等を聞き取り、安心して入所生活が送れるよう家族と協同し随所で意見を求めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態について家族とその時その方にあったサービスは何かを見極め、話し合い、受診や医療系サービスの利用をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事出来ない事を日々の生活の中で見極め、出来る事を行ってもらっている。常に声掛けを行いコミュニケーションをとり信頼できる関係作りをしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡において近況報告や相談等を随時行っている。毎月活動時の様子を写真におさめ、林泉庵便りと一緒に送付している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや受診の送迎の際に馴染みのある場所や自宅付近を通って会話に繋げている。行きつけの美容師が来た時には優先的にカットを依頼し、会話をさせていただくなど交流を図っている。	馴染みの人との交流は現在は困難ではあるが、受診の際は馴染みの場所や自宅近くを廻るなど職員が工夫をしている。家族面会時も外のベンチや事務所の中で行ったり、また、定期的に美容師が来る日は行きつけだった利用者がゆっくり話せるようにするなどの配慮をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の配置を配慮したり、会話の仲介に入ったり、また互いに助け合いができるように傍で見守りや支援も行う事で利用者同士が支え合えるような関係づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接した特養に入所された時はご本人の様子を職員を介し尋ねている。また家族が立ち寄り相談を受けた際には話を傾聴したり、果物や自作した作品を提供してくれるなどの交流を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで希望や意向を発言できるような言葉がけを行い、ご本人から発せられた意向等は総合記録シートに書き留め職員らと共有し、実行できるように努めている。	日々の介護、関わりの中で得られた会話などの情報、希望、また、家族との会話はすべて記録されている。情報は職員間で共有し、サービス実践に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時に家族に生活環境等について聞き取りを行い、入所後には本人との日々の会話や関わりのなかで話題にし話を聞き出すことで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムやバイタル、表情、動きの様子などを総合記録シートに毎日記載し、異常を早期発見できるように努めている。持ちうる力を発揮できる機会を提供し、その時の様子も細かに記載し職員全員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者も介護職員として業務に携わる中でアセスメントを行っている。家族、訪問看護師、介護職員らから意見を聴き介護計画を作成し、3か月おきにモニタリングを行っている。	介護計画作成担当者も介護職員として日常業務に携わりながら、担当職員の気づきや意見を聴きとり、介護計画に反映させている。モニタリングは3か月に1回行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートと介護日誌に日々の様子が分かるように記載している。勤務前には必ず記録に目を通し、申し送りを行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院の介助やその時々希望する買い物の依頼等個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科や訪問皮膚科、かかりつけ医の往診、利用サービス等必要な資源の提供をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に家族より意向を確認し、希望に添って入所前のかかりつけ医あるいは近隣の医院にフォローしてもらっている。受診は職員が行い、日々の様子や状態について相談、助言を得ている。職員が対応できない場合にはFAXや電話連絡でも報告を行っている。受診の難しい入所者に対しては訪問診療を依頼している。	事業所利用開始前から、かかりつけ医の受診支援が行われている。受診時は職員が対応し、変化のあった時は家族に報告している。個人契約で訪問診療を受けている利用者もいる。緊急時は本部の訪問看護に相談しアドバイスをもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する訪問看護ステーションと医療連携契約を締結し、定期的な訪問による健康チェックを依頼している。各利用者がその時に直面している問題を都度報告し、助言を得るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早急に情報提供をし、入院中は訪問や電話連絡にて病院関係者より状態について聞き取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、入所時に家族に説明をし意向を確認、その時に直面した時には家族と都度話し合いを行い、医師や看護師と連携を取り合いながら、事業所において出来ることを整理して、場合によっては法人内の特養への住み替えも視野に入れ、個々のニーズに対応出来るようにしている。	重度化や終末期については、入居時に家族に説明している。重度化の場合はその都度、医師や看護師と話し合いを重ね、家族や利用者の思いを大切に、法人内の特養への住み替えや事業所内での看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを整備し手順に沿って対応している。夜間帯の緊急時に備え、オンコール職員の整備したり、訪問看護師に連絡相談をし指示を得て対応をしている。訪問診療担当医や緊急時に対応可能なかかりつけ医の連絡先は事務所内に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定した訓練や研修を年2回行っている。自治委員や地域の世話人の方に協力を依頼している。備蓄品の確保もしている。	年に2回、火災を想定して消火避難訓練を実施している。地域の消防団との協力体制もできている。利用者も参加し夜間を想定した訓練も実施している。食料や衛生品は事業所内に備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室はすべて個室で、常時扉を閉めプライバシーを確保できる空間を整備している。入所者の名前はさん付けで呼ぶなど、人格を尊重した声掛けや対応を行っている。	トイレ介助の時は必ずドアを閉めて外で待つ。入浴の順番や共用空間での席順も利用者の思いや個性を重視した対応をとっている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう職員同士で注意し合い、声かけなどを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事場所の選択、入浴の意向、食べたい物の聞き取りなど、日常生活の会話の中で思いや意向を聞き取り、常に自己決定ができるような声掛けや支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調やペースを大切に、その都度どのようにしたいのか、出来る限り希望に添うような生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類が着れるように衣替えの支援を行っている。日常的にお化粧を楽しんでいる方もいる。2か月に1回美容組合の方が散髪に来てくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日者には事前に食べたいものを聞き取り提供したり、行事の時には特別な料理を準備している。野菜の下ごしらえや後片付けも職員と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食総合記録シートに記入し一日で把握できるようにしている。主治医からの指示内容に沿って提供できる量や内容も個々で変えている。食事量や水分量の少ない方には個別に菓子やジュースを準備し、適宜提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは食後に必ず行うように声をかけ、見守りや介助をしている。また治療が必要な場合は歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合記録シートに排泄の時間や排尿排便の有無、形状や量を記載し、排泄パターンを把握できるようにしている。失禁しないようこまめにトイレ誘導や声掛けの支援を行ったり、排尿量に合わせた尿取りパットの検討も都度行っている。	個々の排泄の有無や形状、時間など詳細に記録されており、職員は個々の排泄パターンを把握している。紙パンツから布パンツに、また、パット使用者も大きいものから小さいパットに変更した事例もあり、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や運動を行ったり、食事の際は食物繊維の多い食材を取り入れたり、乳製品を摂取している。水分量が少ない方にはコップの大きさを変えたり、夜間水分摂取をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回檜のお風呂の一般浴槽で行っている。広い浴槽ではあるが、ゆっくり入浴を楽しんで頂くため、一人で浴槽内に浸かって頂いている。体調やタイミングに合わせて声掛けし、シャワー浴を実施する場合もある。拒否する方は無理強いせず足浴や清拭、更衣を行っている。	週3回、午前中に入浴している。体調やタイミングに合わせて、1人ずつ、ゆっくり浴槽につかっている。現在は入浴を嫌がる人はいないが、入浴できないときにはシャワー浴や足浴、清拭などで個々の状態に添った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠前薬を内服せずにゆっくりと休むことができるよう、日中は起きて活動を行っている。午睡時間は設けているが、個々で横になり休むタイミングはその時々で違うため、様子を確認しながら適宜休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を個別に整理しファイルし、すぐに確認が出来るようにしている。服薬変更があった場合には記録シートや日誌に記録し情報の共有をしている。服薬セットは間違いがないように3回チェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日には嗜好品を提供したり、家事作業が好きな方には洗濯物干しやたたみ、野菜の皮むき等してもらい、景色を眺めることが好きな方には玄関外にベンチを設置し気分転換ができるようにしている。趣味の継続ができるよう趣味の道具を持ってきてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、個別の外出支援は積極的に行えていないが、庵周辺の散歩、車内から季節の花や風景を楽しむことができるよう、リフト車を借りドライブに出掛けている。ドライブの最中や受診後の帰りに希望を尋ねゆかりのある場所や自宅前を通り、懐かしんでもらえる機会を設けている。	感染予防に留意しながら、日常的に事業所周辺の散歩や玄関前での日光浴など外気に触れる支援を行っている。法人の車を利用し、ドライブに出かけたり、自宅前や馴染みの場所を通るなど、機会をとらえては外出の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお小遣いを管理している方はおらず、職員が家族より預かり管理している。移動販売車に買い物に出掛けた時には職員が本人へお金を手渡し、自身で支払いができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた時にはお礼の電話をしたり、手紙が届いた時には職員と一緒に読んだり、本人に渡している。家族からの希望に沿って電話を取り次ぎも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所から食堂が一望でき、食事作りの音や香り等を感じられるようにしている。又、季節を感じられるように庭には季節の花を植えたり、食堂に飾ったりしている。空気清浄機を配置したり、換気を行い居心地よく過ごせる工夫をしている。	事業所内で三食とも作るため、調理の匂いで五感が刺激され、会話も弾む。共用空間には季節の花や作品などが飾られ、窓の外には実った栗の木や花々が見られる。入居者はゆったりと過ごしており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が話ができるようにテーブル席の配置をしたり、一人で工作をしたり、テレビを観ることが好きな利用者の居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族と相談し、自宅で使用していた寝具や家具等使い慣れたものを持参してもらったり、家族の写真を飾り居心地の良い空間作りをしている。居室内の清掃は毎朝職員が行っている。	毎朝、職員が各部屋の利用者と話しながら清掃および寝具の整理をしている。自分で更衣のできる人はハンガーにかけて選べるようになっている。使い慣れた家具や家族の写真などがあり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	体の変化に伴って安全に生活ができるように都度家具やベッドの配置したり、居室やトイレが分かりやすいように掲示をして自立した生活が送れるようにしている。		